

OBOGの キャリアデザイン



公益財団法人名古屋国際センター

竹内桃子さん

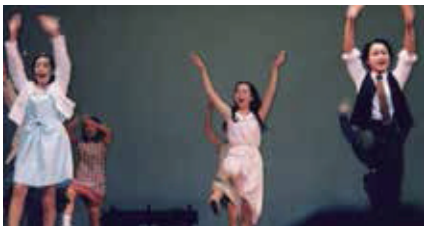
愛知淑徳高等学校第51回卒業（平成10年度卒業）。旧姓：永田。愛知淑徳中学校ではバトントワリング部の活動に励み、高校時代は茶道同好会で日本の伝統文化を学ぶ。南山大学外国語学部英米科に進学し、1年間の交換留学、ボート部の活動などに熱中。卒業後は、グローバルに事業を展開する自動車部品メーカーや外国人講師の派遣会社でキャリアを重ねた後、公益財団法人名古屋国際センターへ。現在は交流協力課で国際交流・協力活動への市民意識を高めるための仕事に従事している。

世界にまなざしを向け、 チャレンジを重ねながら 自分の可能性を広げ続けます。

◆意志の強さ、淑徳魂を育んだ6年間

愛知淑徳で過ごした学校生活は、成長のチャンスにあふれていた——今、6年間を振り返り、しみじみと感じています。

中学時代は憧れだったバトントワリング部での活動に熱中。体育祭や林間学舎のある小坂の夏祭りなどで練習の成果を仲間と共に披露したことが、さらさら輝く思い出として心に残っています。さらに、高校1年生のときは、2週間行われていたハワイセミナーに参加。授業で鍛えた英語力を活かして現地の生徒と交流し、初めて海外の友人ができました。「英語で、自分の思いが伝わった」という喜びは、「大学で英語を専門的に学びたい」という向学心につながりました。



学園祭の中でも印象深い、高校3年生のときのミュージカル。バトントワリング部で磨いた表現力などを活かし、ヒロイン役を熱演。

また、最も燃えたのは、学園祭です。高校3年生のクラスでは、ブロードウェイで上演されたミュージカルを自分たちの手でリメイク。一人ひとりが自分の得意分野で活躍し、個性を發揮し合うステージを創り上げることができました。この経験を通してクラスの結束力が強まり、大学受験にも皆で刺激し合っ取り組めたと感じています。

勉強、部活、学校行事、何事にも全力を注いだ、愛知淑徳での宝物のような日々。最後まで挫けずやり抜く力、淑徳魂が身につく、それが現在も私の底力になっています。

◆積み重ねたキャリアを、 多文化共生社会で活かす

進学した南山大学では、キャプテンを務めたボート部の活動と両立しながら、学修に励みました。3年次には、アメリカ・カリフォルニア州立大学への1年間の交換留学に挑戦。現地の友人や先生に支えられながら英語コミュニケーション能力を大きく伸ばし、「将来はグローバルに働きたい」という志が強くなりました。その思いを貫き、卒業後は自動車部品メーカーに就職。海外に出向き通訳の仕事に任されるなど、貴重な経験を重ねました。その後、さらに自分の可能性を広げたいと考え、外国人講師を派遣する会社へ転職。外国人が日本で暮らし、いきいきと働けるよう、コーディネーターとしてサポートに奔走しました。

そして、結婚を機に、2度目の転職を決意。これまでのキャリアを役立てたいと考え、公益財団法人名古屋国際センターに就職しました。最初に取り組んだのは、日本に住む外国人の皆さんが暮らしやすいまちづくりの事業。地域の人と外国人が互いを理解し、共に生活していくことができるよう、子どもサッカー教室や交流イベントなどの企画・運営に励みました。

◆母として、一人の社会人として、 いっそう自分を高めていきたい

入社4年目からは国際交流・国際協力の事業に携わり、「ワールド・コラボ・フェスタ」の企画・運営や、途上国の識字教育環境づくりを支援する「世界寺子屋運動」、地域で暮らす外国人講師による講座「NIC（ニック）地球市民教室」などを通して、国際理解教育の推進・普及に努めています。より多くの人に伝えていきたいのは、「世界には自己成長のチャンスがあふれている」ということ。私自身、海外・国内問わず多様な文化や価値観を持つ人と心を通わせ合い、人間性を養うことができたと思います。

今後はしばらく産休をとりますが、もちろん復帰する予定。母になることでさらに視野が広がり、多文化共生社会の実現に向けて、新たな角度から貢献できればと考えています。次代を担う子どもたちに素敵な未来を手渡せるよう、チャレンジを続けたいと思います。



企画・運営に特に力を注いだ、名古屋・栄で毎年10月に開催している「ワールド・コラボ・フェスタ」。世界各国の文化や、地域のNGO・NPOなどの国際交流・協力・多文化共生活動を広く紹介するイベントです。愛知淑徳大学の学生たちもボランティアとして活躍。